

## 参考資料

(本書は米国時間 2020 年 4 月 29 日に米国で発表済みの英文プレスリリースの和訳です。  
解釈に相違が生じた際には、英語版を基準とします)

2020 年 4 月 30 日

### Aflac Incorporated は 2020 年度第 1 四半期の業績を発表 2020 年度第 1 四半期の純利益は 5 億 6,600 万ドル 2020 年度の 1 株当たり調整後利益ガイダンスを取り下げ 2020 年度第 2 四半期現金配当を決定

Aflac Incorporated (以下、「当社」)は、本日、2020 年度第 1 四半期の業績を以下のとおり発表しました。

当四半期の収益合計は、前年同期の 57 億ドルから 52 億ドルとなりました。当期純利益は、前年同期の 9 億 2,800 万ドル(希薄化後 1 株当たり 1.23 ドル)から 5 億 6,600 万ドル(同 0.78 ドル)となりました。当四半期の収益合計及び当期純利益の減少は、ともに主として資産運用損(純額)の増加によるものです。

前年同期の当期純利益には、1 億 300 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.14 ドル)の税引前資産運用益(純額)が含まれていたのに対し、当四半期の当期純利益には、4 億 4,800 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.62 ドル)の税引前資産運用損(純額)が含まれていました。この資産運用損(純額)は複数の要因によってもたらされたものですが、これには、持分証券の公正価値の減少による損失 1 億 4,900 万ドル、一部のデリバティブ及び外国為替取引からの損失 1 億 4,600 万ドル、新たな会計基準である現在予想信用損失(CECL)の適用に伴う損失 6,500 万ドルを含む信用損失 1 億 4,500 万ドルならびに売却及び償還による損失 700 万ドルが含まれていました。

当四半期の平均円/ドル為替レート\*は、前年同期の 1 ドル 110.24 円から、1.3%円高ドル安の 1 ドル 108.84 円となりました。

運用資産及び現金・預金合計は、2019 年 3 月 31 日現在の 1,314 億ドルから、2020 年 3 月 31 日現在では 1,370 億ドルとなりました。当四半期、当社は 4 億 4,900 万ドル相当(1,000 万株)の自己株式を取得しました。2020 年 3 月 31 日現在、当社の自己株式取得承認枠の残枠は、2,710 万株となっています。

株主持分は、2019 年 3 月 31 日現在が 260 億ドル(1 株当たり 34.90 ドル)であったのに対して、2020 年 3 月 31 日現在では 264 億ドル(同 36.75 ドル)でした。株主持分に含まれる保有有価証券及びデリバティブに係る未実現益(純額)は、2019 年 3 月 31 日現在が 65 億ドルであったのに対して、当四半期末では 60 億ドルでした。株主持分に含まれる外貨換算未実現損は、2019 年 3 月 31 日現在が 18 億ドルであったのに対して、当四半期末現在は 15 億ドルでした。当四半期における平均株主資本利益率は、年率換算で 8.2%でした。

当四半期の調整後利益\*は、前年同期の 8 億 4,900 万ドルから 8 億 8,200 万ドルと、3.9%増加しました。調整後利益は、当社の予想通り、オルタナティブ投資による税引前変動投資収益 710

万ドルを含んでいました。希薄化後 1 株当たり調整後利益\*は、8.0%増加し 1.21 ドルとなりました。為替レートが円高ドル安になったことにより、当四半期の希薄化後 1 株当たり調整後利益は 0.01 ドルの影響を受けました。為替変動の影響を除く希薄化後 1 株当たり調整後利益\*は、7.1%増加し 1.20 ドルとなりました。

その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除く株主持分\*は、2019年3月31日現在が 216 億ドル(1 株当たり 28.89 ドル)であったのに対して、2020年3月31日現在は、222 億ドル(同 30.92 ドル)となりました。当四半期の為替変動の影響を除く調整後株主資本利益率\*は、年率換算で 15.7%でした。

### アフラック(日本)

円ベースで、アフラック(日本)の当四半期の保険料収入(純額)は、主として短期払商品の払済化により、前年同期比 2.1%減の 3,431 億円となりました。ヘッジ費用の償却額を控除した投資収益(純額)\*は、4.0%増の 698 億円となりました。当四半期の円ベースの収益合計は、1.1%減少し 4,140 億円となりました。当四半期の円ベースの税引前調整後利益は、保険金給付金比率が強含みであったこと及び良好な投資収益(純額)により、報告ベースでは 1.2%増加しました。また、為替変動の影響を除くベースでは 1.7%増となりました。日本セグメントの税引前調整後利益率は、前年同期が 21.9%であったのに対して、当四半期は 22.5%となりました。

当四半期のドルベースの保険料収入(純額)は、前年同期比 0.9%減の 32 億ドルとなりました。ヘッジ費用の償却額を控除した投資収益(純額)は、前年同期比 5.2%増の 6 億 4,200 万ドルとなりました。収益合計は、横這いの 38 億ドルとなりました。税引前調整後利益は、前年同期比 2.5%増の 8 億 5,500 万ドルとなりました。

当四半期の保障性第一分野保険及び第三分野保険の新契約年換算保険料(販売)は、25.8%減少し 136 億円となりました。当四半期の販売合計は、25.4%減の 140 億円(1 億 2,900 万ドル)となりました。当四半期の実績は、主として日本郵政を通じたがん保険の販売減少による影響を受けました。

### アフラック(米国)

当四半期のアフラック(米国)の保険料収入(純額)は 1.5%増加し、15 億ドルとなりました。投資収益(純額)は、横這いの 1 億 7,700 万ドルとなりました。収益合計は 2.9%増の 17 億ドルとなりました。当四半期の税引前調整後利益は、予想されていた事業費の増加はあったものの、良好な保険金給付金比率を反映して、前年同期比 0.9%増の 3 億 2,600 万ドルとなりました。当四半期の米国セグメントの税引前調整後利益率は、前年同期の 19.7%から 19.3%となりました。

当四半期のアフラック(米国)の販売は、5.2%減の 3 億 2,300 万ドルとなりました。当四半期の実績は、団体保険の販売は増加したものの、弱い個人保険販売がこれを相殺したことを反映しています。

### 全社(アフラック(日本)及びアフラック(米国)を除く)及びその他

当四半期の収益合計は、5,300 万ドルの投資収益(純額)及び経費の減少を反映し、前年同期

比 9.5%増の 1 億 400 万ドルとなりました。投資収益(純額)は 1,100 万ドル増加しましたが、これは主として、全社のヘッジ・プログラムから発生した税引前利益 2,900 万ドルの恩恵によるものです。税引前調整後利益は、前年同期が 1,800 万ドルの損失であったのに対して、当四半期は、200 万ドルの利益でした。これは主として、全社のヘッジ・プログラムから発生した投資収益(純額)の増加を反映しています。

## 現金配当

取締役会は、2020 年度第 2 四半期支払いの四半期現金配当を 1 株当たり 0.28 ドルとすることを決定しました。この現金配当は、2020 年 5 月 20 日の営業時間終了時点の登録株主に対し、2020 年 6 月 1 日に支払われます。

## 今後の見通し

当社の業績について、当社会長兼最高経営責任者であるダニエル・P・エイモスは次のように述べています。

「全世界を襲った新型コロナウイルスのパンデミックによって引き起こされた、この信じられないような、また前例のない難局を通じて、当社の経営陣、従業員、募集人が見せてくれた、柔軟な対応、思いやりの心、そして高い志に対して、私は大きな感謝をささげたいと思います。当社のご契約者の皆さまはもとより、当社関係者の安全と健康は当社の最優先事項であり、ご契約者の皆さまが最も必要とされる時、当社を身近でお役立ていただけるよう、日々努力を重ねています」

「当社は、強い利益と多様化した強力な資産運用ポートフォリオ、高い自己資本比率と最近の社債発行によりさらに強化された持株会社の流動性ととも、第 1 四半期を終え、この危機に突入しました。しかしながら、対面の営業活動の減少が影響し、日米とも、3 月に販売の減少が始まり、減少は 4 月にさらに加速しました。当社の各販売プラットフォームと販売提携先は、新しい環境に適応する努力を続けていますが、少なくとも新型コロナウイルスに関する制限が緩和されるまでの間は、こうした傾向が販売の大幅な減少につながるものと、当社は確信しています」

「刻々変化するグローバルな新型コロナウイルスのパンデミックの性質に鑑み、当社は、販売は非常に厳しいものとなり、コアとなる利益は大きく変動するものと考えています。このような状況の中で、当社の販売と業務全般にわたり、正常化までの期間、潜在的な影響、及び回復のペースについて、妥当な正確性をもって予測することは困難です。従いまして、2020 年の調整後利益目標を一旦取り下げさせていただくことは、賢明な措置であると当社は確信しています。しかしながら、今後の利益の変動要因とすべての傾向について、当社は説明を尽くしてまいります」

「このことを念頭に、当社は周到な流動性及び資本管理を徹底していきます。ご承知のとおり、当社は機動的な資本配分を行っており、資本の利用と防衛については、すべての選択肢をオープンにしています。自己株式の取得目標については、引き続き市場での活動を継続していますが、その水準を低下させており、状況に応じて機動的に進めていきます。このことは、日米両国の当社のご契約者の皆さまのために、当社が強力な自己資本比率を維持するに当たっての柔軟性をもたらします。また当社は、37 年間の年間配当増配記録を守り、これをさらに更新していくことにコミットしています。さらに当社は、当社の事業プラットフォームに対する機動的な投資を継続し、最近締結された、チューリッヒ・ノースアメリカの米国企業保険・年金(団体保障)部門買収の最終契約

にみられるような成長投資を通じて、営業基盤を強化していきます。これにより、当社は現在の強いポジションと主導力を維持しながら、この難局を切り抜きたいと考えています」

\*外国為替及びその財務諸表への影響についての説明、本書において用いられている米国 GAAP 外の財務指標の定義ならびに米国 GAAP 外の財務指標から最も比較可能な米国 GAAP の財務指標への調整については、後述の「米国会計基準 (GAAP) 外の財務指標」をご参照ください。

### アフラック・インコーポレーテッドについて

アフラック・インコーポレーテッド(ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル AFL)は、フォーチュン 500 社の 1 社であり、日米の子会社を通じて、5,000 万人以上の方々に保障を提供し、ご契約者の皆さまが病気や怪我をした時に、給付金を現金で迅速にお支払いすることで、両国において補完保険のリーディング・カンパニーとなっています。60 年以上にわたって、アフラック・インコーポレーテッドの子会社の保険商品は、ご契約者の皆さまが経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。アフラック生命保険株式会社は、日本における医療保険・がん保険の最大手で、4 世帯に 1 世帯がその保険に加入しています。『フォーチュン』誌は、アフラックを 20 年連続で「全米で最も働きがいのある企業 100 社」に選出しています。またアフラックは、『Ethisphere』誌から 14 年連続で「世界で最も倫理観の高い企業」の 1 社に選出されています。2020 年、『フォーチュン』誌は、19 回目となる「世界で最も賞賛すべき企業」の 1 社にアフラック・インコーポレーテッドを選出し、ブルームバーグは、男女平等指数の対象企業にアフラック・インコーポレーテッドを加えました。この指数は、方針の策定、表明、及び透明性を通じて男女平等への支援にコミットしている公開企業の財務業績の推移を追跡するものです。通常健康保険が保障しない出費にどのようにお役立ていただくかについての情報は、当社のウェブサイトをご覧ください。

当四半期の業績数値の補足資料(Financial Analysts Briefing (FAB) supplement)は、当社のウェブサイトから入手可能です。

Aflac Incorporated は、当四半期業績報告の電話会議の様様を 2020 年 4 月 30 日(木曜日)午前 9 時 00 分(米国東部時間)に当社のウェブサイト上で公開します。

**Aflac Incorporated 要約連結損益計算書**  
 (単位:百万ドル。ただし、株式数及び1株当たりの数字を除く—無監査)

**3月31日に終了した3ヶ月間:**

	<b>2020</b>	<b>2019</b>	<b>増減率</b>
収益合計	5,162	5,657	-8.8%
保険金給付金(純額)	2,939	2,967	-0.9%
新契約費及び事業費合計	1,503	1,448	3.8%
税引前当期純利益	720	1,242	-42.0%
法人税等	154	314	
当期純利益	566	928	-39.0%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	0.78	1.23	-36.6%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	0.78	1.23	-36.6%
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	724,366	751,423	-3.6%
希薄化後	727,512	755,790	-3.7%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	0.28	0.27	3.7%

## Aflac Incorporated 要約連結貸借対照表

(単位:百万ドル。ただし、株式数を除く—無監査)

### 3月31日現在:

	2020	2019	増減率
資産:			
運用資産及び現金・預金合計	136,967	131,438	4.2%
繰延新契約費	10,164	9,892	2.7%
その他の資産	4,485	4,349	3.1%
資産合計	151,616	145,679	4.1%
負債及び株主持分:			
保険契約準備金	107,552	103,680	3.7%
社債等及びリース負債	6,758	5,900	14.5%
その他の負債	10,904	10,050	8.5%
株主持分	26,402	26,049	1.4%
負債及び株主持分合計	151,616	145,679	4.1%
期末発行済普通株式数(単位:千株)	718,382	746,487	-3.8%

## 米国会計基準(GAAP)外の財務指標

本書には、アフラックの米国GAAP外の基準による財務指標である調整後利益、希薄化後1株当たり調整後利益、調整後株主資本利益率、ヘッジ費用/収益の償却額及び調整後純資産額への言及が含まれている。これらの指標は、米国GAAPに沿って計算されていない。これらの指標は、全般的な経済情勢や事象に影響され、あるいは保険事業に直接関係しない数少ない取引に関連する傾向にあるため、保険事業の基盤や傾向を必ずしも正確に反映していない可能性があるためと当社が考える項目を除外したものである。当社経営陣は、アフラックの連結ベースの保険事業の財務業績を評価するにあたっては、調整後利益、希薄化後1株当たり調整後利益及び調整後株主資本利益率を用いている。また、これらの指標を表示することは、アフラックの保険事業に内在する利益の原動力や傾向を理解するに際して、極めて重要であると当社経営陣は確信している。当社は、調整後利益の要素であるヘッジ費用/収益の償却額は、一部の為替変動リスクのヘッジに係る定期的な為替リスク管理費用/収益を計測するものであり、投資収益(純額)の重要な要素であると確信している。当社は、経営のコントロールが及ばない市場動向によって変動するその他の包括(損)益累計額(AOCI)を除外するという点で、調整後純資産額は重要なものであると考えている。当社の米国GAAP外の財務指標の定義及びこれらに最も比較可能な米国GAAPの財務指標との調整については、下記及びこれに続く表に記載されている。

日本円を機能通貨とするアフラック(日本)の規模が大きいため、円/ドル為替レートの変動は当社の報告業績に対して著しい影響を与え得る。円安に推移する期間においては、円貨のドル貨への換算においてはより少ないドル貨で報告される。円高に推移する期間においては、円貨のドル貨への換算においてはより多くのドル貨で報告される。このように、円安は、前年同期との比較において当期の業績を押し下げ、円高は、前年同期との比較において当期の業績を押し上げる効果がある。当社の事業の非常に大きな部分が円で行われており、米国GAAPによる報告の目的のために、これがドルに換金されることはないものの、ドルに換算されることから、為替変動は、米国GAAPに基づく利益、キャッシュ・フロー及び純資産に影響を与える。また、為替レートは経営のコントロール外にあるため、アフラックは、日本円を米ドルに換算することの影響を理解することは重要であると確信している。当期における為替変動の影響を除く調整後利益、希薄化後1株当たり調整後利益及び調整後株主資本利益率は、全て比較の対象となる前年同期における平均円/ドル為替レートを用いて計算されており、円/ドル為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去したものである。平均円/ドル為替レートは、株式会社三菱UFJ銀行が公表する対顧客電信仲値(TTM)に基づいている。

当社は、本書に含まれている米国GAAP外の財務指標を以下の通り定義している。

・調整後利益は、調整後収益から保険金給付金及び調整後費用を差引いたものである。収益及び費用に対する調整は、予測不能あるいは経営のコントロールが及ばない一部の項目から構成される。調整後収益は、外国為替のエクスポージャーへの管理戦略及び特定の投資戦略によるデリバティブからの金利キャッシュ・フロー(純額)に係るヘッジ費用/収益の償却額以外の資産運用損益(純額)を除いた米国GAAPベースの収益合計である。調整後費用は、社債等に係るデリバティブからの金利キャッシュ・フローへの影響を含み、当社の保険事業の通常の業務に関係せず当社の基礎となる業績を反映しない非経常的損益ならびにその他の損益を除く、米国GAAPベースの新契約費及び事業費の合計である。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、当期純利益である。

・1株当たり調整後利益(基本あるいは希薄化後)は、当該期間の調整後利益を期中の加重平均発行済株式数(基本あるいは希薄化後)で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、1株当たり当期純利益である。

・為替変動の影響を除く調整後株主資本利益率は、当期の為替レート変動の影響を除く調整後利益を、AOCIを除く平均株主持分で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、平均株主資本利益率(ROE)であり、これは当期純利益と平均株主持分を用いて決定される。

・ヘッジ費用/収益の償却額は、当社の日本セグメント及び全社(アフラック(日本)及びアフラック(米国))を除く)及びその他セグメントにおける、一部の為替リスクをヘッジするために為替デリバティブを用いた結果生じる、あるいは認識されるものである。これらのヘッジ費用/収益の償却額は、個々の契約に固有の条件に基づくデリバティブの取引開始時に評価され、ヘッジ期間にわたって、定額で認識される。ヘッジ費用/収益の償却額と比較可能な米国GAAPの財務指標はない。

・調整後純資産額は、米国GAAPに基づく純資産額(株主持分合計)から、米国GAAPに基づき貸借対照表に記録されたその他の包括(損)益累計額(AOCI)を控除したものである。調整後純資産額は、経営のコントロールの及ばない市場の動向によって変動するAOCIを除いていることから、当社はこの指標は重要であると考えている。

・1株当たり調整後純資産額は、当該期末の調整後純資産額を当該期末の発行済普通株式数で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、1株当たり純資産額である。

**当期純利益から調整後利益への調整<sup>1</sup>**  
 (単位:百万ドル。ただし、1株当たりの数字を除く—無監査)

**3月31日に終了した3ヶ月間:**

	<u>2020</u>	<u>2019</u>	<u>増減率</u>
当期純利益	566	928	-39.0%
調整後利益への調整項目:			
資産運用損(益)(純額)	448	-103	
その他及び非経常的損(益)	15	-	
調整後利益への調整項目に係る法人税(軽減額)費用	-146	23	
調整後利益	882	849	3.9%
当期における為替変動の影響 <sup>2</sup>	-9	非適用	
当期における為替変動の影響を除く調整後利益 <sup>3</sup>	873	849	2.8%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	0.78	1.23	-36.6%
調整後利益への調整項目(単位:ドル):			
資産運用損(益)(純額)	0.62	-0.14	
その他及び非経常的損(益)	0.02	-	
調整後利益への調整項目に係る法人税(軽減額)費用	-0.20	0.03	
希薄化後1株当たり調整後利益(単位:ドル)	1.21	1.12	8.0%
当期における為替変動の影響 <sup>2</sup> (単位:ドル)	-0.01	非適用	
当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益 <sup>3</sup> (単位:ドル)	1.20	1.12	7.1%

<sup>1</sup>端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

<sup>2</sup>為替変動については、その影響額を当期に限定するため、前期の影響額は「非適用」とした。

<sup>3</sup>当期における為替変動の影響を除く金額は、比較対象の前年同期における平均為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去している。

## 米国GAAPに基づく純資産額から調整後純資産額への調整<sup>1</sup>

(単位:百万ドル。ただし、株式数及び1株当たりの数字を除く—無監査)

### 3月31日現在:

	<u>2020</u>	<u>2019</u>	<u>増減率</u>
米国GAAPに基づく純資産額	26,402	26,049	
減算:			
外貨換算未実現(損)益	-1,543	-1,848	
保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益	6,008	6,535	
年金債務当期調整額	-277	-206	
その他の包括(損)益累計額合計(AOCI)	4,188	4,481	
調整後純資産額 <sup>2</sup>	22,214	21,568	
加算:			
外貨換算未実現(損)益	-1,543	-1,848	
外貨換算未実現(損)益を含む調整後純資産額 <sup>3</sup>	20,671	19,720	
期末発行済株式数(単位:千株)	718,382	746,487	
1株当たりの米国GAAPに基づく純資産額(単位:ドル)	36.75	34.90	5.3%
減算:			
1株当たりの外貨換算未実現(損)益	-2.15	-2.48	
1株当たりの保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益	8.36	8.75	
1株当たりの年金債務当期調整額	-0.39	-0.28	
1株当たりのその他の包括(損)益累計額合計(AOCI)	5.83	6.00	
1株当たりの調整後純資産額 <sup>4</sup>	30.92	28.89	7.0%
加算:			
1株当たりの外貨換算未実現(損)益	-2.15	-2.48	
1株当たりの外貨換算未実現(損)益を含む調整後純資産額 <sup>3</sup>	28.77	26.42	8.9%

<sup>1</sup>端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

<sup>2</sup>調整後純資産額は、米国GAAPに基づく純資産額(株主持分合計)から、米国GAAPに基づき貸借対照表に記録されたその他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いたものである。

<sup>3</sup>外貨換算未実現(損)益を含む調整後純資産額は、調整後純資産額に外貨換算未実現(損)益を加算したものである。

<sup>4</sup>1株当たり調整後純資産額は、当該期末の調整後純資産額を当該期末の発行済普通株式数で除したものである。これと最も比較可能な米国GAAPの指標は、1株当たり純資産額である。

## 米国GAAPに基づく株主資本利益率(ROE)から調整後ROEへの調整<sup>1</sup>

(為替変動の影響を除く)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	2020	2019
当期純利益 - 米国GAAPに基づく株主資本利益率(ROE) <sup>2</sup>	8.2%	15.0%
外貨換算未実現(損)益を除いた影響	-0.6%	-1.3%
保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益を除いたことによる影響	2.7%	3.7%
年金債務当期調整額を除いたことによる影響	-0.1%	-0.1%
その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いたことによる影響	2.0%	2.3%
その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いた米国GAAPに基づくROE	10.2%	17.3%
調整後利益と当期純利益の差異 <sup>3</sup>	5.7%	-1.5%
報告された調整後ROE	15.8%	15.8%
減算: 為替変動の影響 <sup>4</sup>	0.2%	非適用
為替変動の影響を除く調整後株主資本利益率(ROE)	15.7%	15.8%

<sup>1</sup>端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しない。

<sup>2</sup>米国GAAPに基づくROEは、(年換算した)当期純利益を平均株主資本で除して計算されている。

<sup>3</sup>当期純利益から調整後利益への調整については、別表を参照のこと。

<sup>4</sup>為替変動の影響は、損益計算書上のすべての外貨建ての項目を、比較対象の前年同期における加重平均為替レートで再計算して求めている。この影響は、再計算後の調整後利益の、報告された調整後利益に対する差異である。比較の目的で、前期の加重平均為替レートをを用いて当期の損益のみを再計算し、当期における為替変動の影響を消去している。これにより、この財務指標の公平な比較を行うことができる。

**為替変動の調整後業績への影響<sup>1</sup>**  
(主要項目の前年同期比増減率—無監査)

**2020年3月31日に終了した3ヶ月間:**

	<b>為替変動の 影響を含む</b>	<b>為替変動の 影響を除く<sup>2</sup></b>
保険料収入(純額) <sup>3</sup>	-0.2%	-1.0%
投資収益(純額) <sup>4</sup>	5.2%	4.7%
保険金給付金及び事業費合計	0.3%	-0.4%
調整後利益	3.9%	2.8%
希薄化後1株当たり調整後利益	8.0%	7.1%

<sup>1</sup>調整後利益及び希薄化後1株当たり調整後利益については、前記の定義を参照のこと。

<sup>2</sup>為替変動の影響を除く金額は、比較対象の前年同期における為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされたドルベースの変動を消去している。

<sup>3</sup>出再保険控除後。

<sup>4</sup>外貨建て投資に係るヘッジ費用/収益の償却額を減算。